

STI Horizon 2019 春号発行に当たって

2019年を迎え、STI Horizon 誌も4年目に入りました。新たな気持ちで社会や科学技術の新潮流や当研究所の研究成果を報告してまいります。

さて、STI Horizon 2019 春号では、特別インタビューとして、東京大学 雨宮 慶幸 特任教授より研究のフロンティアを拓くためには異分野・産学の相互信頼が重要であるとお話を伺いました。また、ナイスステップな研究者として、京都大学の榎戸 輝揚 特定准教授には、クラウドファンディングや市民と協働するオープンサイエンスの成功例について、また、東京大学の鳥海 不二夫 准教授に AI とビッグデータを活用した計算社会科学についてのお話を伺いました。社会や科学技術の新たな「兆し」をとらえる「ほらいずん」では、科学技術に関する政策の意思決定を支援する欧州議会科学技術選択評価委員会 (STOA) の活動、100年後も見据える理化学研究所未来戦略室の取組、及び、サーキュラーエコノミーの動向を報告します。当研究所の研究成果等を紹介するレポートとしては、オープンサイエンスの将来を展望するマルチステークホルダー・ワークショップとその後の展開について論考します。また、最近更新された Oslo Manual 2018 について、その内容を解説いたします。

STI Horizon 2019 春号をお楽しみください。また、ウェブサイトも含め、お近くの方々への御紹介をよろしく願いいたします。

STI Horizon 誌編集長 赤池 伸一
(科学技術・学術政策研究所 上席フェロー)